

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研 究 テーマ	静岡市葵区井川における南アルプスユネスコエコパーク移行地域としての可能性の探求 ー在来作物の栽培と食からみる自然と文化の連関				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	村橋 勲
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	湖中 真哉
		所属・職名	名古屋大学・教授	氏名	横山 智
		所属・職名	静岡県立農林環境専門職大学・教授	氏名	丹羽 康夫
		所属・職名	パルマ大学・准教授	氏名	マ リ オ ベネツィアーニ Mario Veneziani
		所属・職名	オックスフォード大学・講師	氏名	アリエル エーハーン Ariell Ahearn
		所属・職名	オックスフォード大学・上級研究員	氏名	トロイ スタンバーグ Troy Sternberg
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	村橋 勲

講演題目
静岡市葵区井川における在来作物の保存と継承 ー南アルプスユネスコエコパーク移行地域としての可能性の探求ー
研究の目的、成果及び今後の展望
〔研究の目的〕 2014年に南アルプスユネスコエコパークの登録が決定し、静岡市葵区井川地区は移行地域に指定された。本研究の目的は、井川の特徴を自然環境と歴史・文化的環境が繊細かつ複雑に組み合わさったく自然・文化複合体>として捉え、南アルプスユネスコエコパークの移行地域として、どのような潜在的可能性を備えているかを解明することである。井川では、長らく生業活動と自然環境が調和した持続可能な暮らしが営まれてきたが、近年では急速な人口減少により、農家が受け継いできた在来の作物や農法の維持、保存が困難になりつつある。また、担い手不足により伝統的な食の継承につながる祭礼の維持も危ぶまれている。こうした状況において、人々がどのように在来作物の保存、継承に取り組んでいるかを研究した。 〔成果及び今後の展望〕 本研究では、村橋（代表者）が、井川の小河内集落の焼畑と田代集落のヤマメ祭り（諏訪神社例大祭）に関するフィールドワークを実施した。令和6年度は、8月上旬に小河内集落の畑で火入れと在来蕎麦の播種が行われ、11月初旬に蕎麦の収穫が行われた。夏の高温の影響で収量は少なかったため、蕎麦のタネは自家採取され、保存された。また、焼畑実践に協力する蕎麦店の店主に聞き取り調査を行い、在来蕎麦の普及に向けた新たな取り組みについて調査した。焼畑に関連する一連の映像資料については、今後、編集して映像作品として公開予定である。田代では、8月下旬にヤマメ祭りが開催され、四年に一度の神輿渡御も行われた。神饌であるヤマメずしは、焼畑による粟の栽培からアマゴ（ヤマメ）の漁獲、塩漬けに至るまで伝統的な手法で作られ、豊作、豊漁を祈願して神社に献供された。一方、神輿渡御は手順が簡略化され、担い手の高齢化と不足により、祭りが変化しつつある現状が確認できた。その他、トロイ氏（分担者）は、村橋、湖中（分担者）とともに井川を視察し、外国人観光客への井川の魅力発信と持続可能な観光のあり方に関する提言を行った。令和6年度、本学は静岡市が行う「南アルプスパートナーシップ」事業に賛同した。本研究で得た知見は、令和7年度にオープンする南アルプスユネスコエコパーク・ミュージアムにおける活動への協力をとおして、井川に関する活動や取り組みに貢献することが期待される。